

歴史スポットマップ

～下丸子・武蔵新田編～

ろくごう ようすい 六郷用水

★六郷用水とは？

16世紀末、小泉次大夫により、新田開発と用水開削が徳川家康に進言され、開削工事が開始されました。江戸時代の慶長16年(1611)、川崎側の二ヶ領用水とともに、多摩川左岸の世田谷領・六郷領側の用水も完成し、「六郷用水」と呼ばれました。その後、改修を経ながら田を潤し、大正以降には生活排水路へと徐々に姿を変えました。



六郷用水の流れ(復元整備後)

★六郷用水 南北引き分け ①

六郷用水のうち北堀と南堀に分岐する地点です。北堀は16村、南堀は23村の地域を流れ、平野部全体に水を巡らせました。南堀の先は現在の蒲田や六郷・羽田まで続き、現在も周辺で流路のなごりを見ることができます。



六郷用水 南北引き分け

にった よしおき 新田義興に関する文化財

●新田神社 ⑤

新田義興を祭神とする神社です。地域の人々が、怨霊となった義興の霊を鎮めるため、埋葬した塚に社を建立したのがはじまりと伝えられています。徳川将軍家が新田氏の出身であると称したため、江戸時代には多くの武家から信仰を集めました。

宝物殿収蔵の「新田大明神縁起絵」(都指定、通常非公開)など、多くの文化財があります。



新田神社拝殿

●ミニ情報！ 新田義興について

南北朝時代の武将で、新田義貞の次男です。合戦のため鎌倉に向かっていくところ、敵の謀略に遭い多摩川の矢口の渡りで亡くなったと伝えられています。謀略に加わった頼兵衛と関連する人々をえがいた人形浄瑠璃・歌舞伎の「神霊矢口渡」は、江戸時代から現在まで上演され続けています。



香蝶楼国貞
「神霊矢口之渡」
天保14年～弘化4年
(1843～47年)
(大田区立郷土博物館所蔵)

そうばん ねんぶつ 双盤念仏

★延命寺 ⑥

今泉延命寺には、都指定無形民俗文化財の双盤念仏が伝わっています。双盤念仏とは、太鼓と鉦を打ち鳴らしながら唱える念仏のことで、お寺の法要日などに演奏が行われます。演奏を行う集団は「双盤講」と呼ばれます。都内に残る双盤講はわずか6団体で、そのうち文化財に指定されているのは4団体(延命寺は23区内唯一)です。



使用する鉦と譜面台



「延命寺双盤念仏」演奏の様子(平成28年)

★ミニ情報！ 双盤念仏記録映像

区教育委員会では、今泉延命寺双盤講保存会の協力のもと、活動記録映像を作成しました。貴重な演奏や練習の様子、双盤講保存に尽力した先人へのインタビューなどが収められています。保存会がYoutubeにて公開していますので、ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。



「延命寺双盤念仏」
活動記録映像の
QRコード

●頼兵衛地蔵 ③

区指定文化財「地蔵菩薩立像(俗称 頼兵衛地蔵)」をまつっています。頼兵衛は、平賀源内の浄瑠璃「神霊矢口渡」に登場する多摩川の渡守です。この地蔵については、頼兵衛が合戦に向かう新田義興の謀殺に加担した罪を悔いて建てたという伝説などが残っています。摩耗がはげしいため「とろけ地蔵」とも呼ばれています。

●妙蓮塚 ③

三体地蔵とも言われ、多摩川の対岸に斬り込んで戦死した義興の3人の家臣をまつっています。



妙蓮塚

●十寄神社 ④

「十騎神社」「とおよせ様」とも呼ばれています。この地で義興とともに戦死した10人の家臣をまつっています。



十寄神社

さらに詳しくは、こちら↓もご覧ください！郷土博物館で購入できます。
『大田区歴史散策ガイドブック(鶉の木・矢口編)』(価格:100円)
『大田区指定有形民俗文化財とその周辺』大田区の文化財第31集(価格:2,000円)
『大田区の祭り・行事、民俗芸能調査集録』大田区の文化財第41集(価格:700円)